総合研究協議会

東日本大震災から2.5年
――日本建築学会の取り組みとこれから

［資料あり］

8月30日（金）9:15〜17:00　工学部オープンホール

司会　松村秀一（東京大学）
副司会　三宅　諭（岩手大学）
記録　三浦秀一（東北芸術工科大学）

1. 主旨説明　中島正愛（京都大学防災研究所）
2. 基調講演　河田惠昭（関西大学）
3. 第二次提言の検討経過　佐土原聡（横浜国立大学）
4. 第二次提言の概要
【津波】（司会進行：中島正愛（前掲）、記録：高橋典之（東北大学））
❶全体総括　濱本卓司（東京都市大学）
❷討論
・破壊力調査　濱本卓司（前掲）
・耐津波設計　西田哲也（秋田県立大学）
・新性能設計　前田匡樹（東北大学）
・減災市街地設計　有賀　隆（早稲田大学）
・復興まちづくり　北原啓司（弘前大学）
・パネリスト＋河田惠昭（前掲）＋室崎益輝（兵庫県立大学）＋中島正愛（前掲）
【対応】（司会進行：松村秀一（前掲）、記録：市岡綾子（日本大学））
❶全体総括　岩佐明彦（新潟大学）
❷討論
・専門的貢献　厳　　爽（宮城学院女子大学）
・避難生活環境向上　岩佐明彦（前掲）
・既存ストック活用　同上
・災害廃棄物　板垣直行（秋田県立大学）
・パネリスト＋河田惠昭（前掲）＋室崎益輝（前掲）＋松村秀一（前掲）
【継承】（司会進行：松村秀一（前掲）、記録：三宅　諭（前掲））
❶全体総括　後藤　治（工学院大学）
❷討論
・パネリスト＋河田惠昭（前掲）＋室崎益輝（前掲）＋松村秀一（前掲）＋北原啓司（前掲）
【原発】（司会進行：佐土原聡（前掲）、記録：三浦秀一（前掲））
❶全体総括　田辺新一（早稲田大学）
❷討論
・生活様式調査　田辺新一（前掲）
・省エネルギー設計　望月悦子（千葉工業大学）
・代替エネルギー利用　村上公哉（芝浦工業大学）
・放射線対応策　丸山一平（名古屋大学）
・パネリスト＋河田惠昭（前掲）＋室崎益輝（前掲）＋佐土原聡（前掲）
【首都】（司会進行：中島正愛（前掲）、記録：加藤孝明（東京大学生産技術研究所））
❶全体総括　久田嘉章（工学院大学）
❷討論
・性状実態把握　田村和夫（千葉工業大学）
・非構造部材性能　同上
・即時災害対応　飛田　潤（名古屋大学）
・被災実態把握　増田幸宏（豊橋技術科学大学）
・DCP 地域内連携　鱒沢　曜（鱒沢工学研究所）
・パネリスト＋河田惠昭（前掲）＋室崎益輝（前掲）＋中島正愛（前掲）
5. 討論：巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり
有賀　隆（前掲）
岩佐明彦（前掲）
河田惠昭（前掲）
前田匡樹（前掲）
田辺新一（前掲）
久田嘉章（前掲）
室崎益輝（前掲）
司会：福和伸夫（名古屋大学）
菊地　優（北海道大学）
記録：牧　紀男（京都大学防災研究所）
6. 全体講評　室崎益輝（前掲）

本会は、東北地方太平洋沖地震発生当日に「東日本大震災調査復興支援本部」を立ち上げ、その下に「研究・提言部会」を設置し、本会の傘下にある学術推進委員会において今後調査研究すべき内容を同定する作業に入った。同部会は、2011 年 9 月に第一次提言をまとめ、2011 年 10 月号の『建築雑誌』でその委細を公表した。

第一次提言では、「（建築を通じて）人々の暮らしを支える」ことを活動の基盤とする本会の立場を鮮明にするためにも、既存の研究ジャンルごとの課題整理ではなく、人と生活という視点に立って東日本大震災から得られる教訓を引き出すことに腐心し、その結果、「（大）津波」「（災害）対応」「首都（を含む大都市）」「原（子力）発（電所）（災害）」「（記録と）継承」という 5 つのキーワードを掲げたうえで、計 20 項目からなる「行動」をとりまとめた。第一次提言の公表後、「行動」をより具体化することをめざした第二次提言作成作業に入った。また、2012 年度に新設された特別調査委員会（巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会）と分担・連携することを申し合わせた。

1 年半にわたる議論を経て第二次提言がまとまったこの機会に、本協議会では、その内容を本会会員に披露するとともに、さまざまな視点からの意見を聴取することにより、東日本大震災からの復興と将来の巨大地震への予防に関わって、本会が今後推進すべき事項を本会会員と共有したい。本研究協議会では、上記の 5 つのキーワードと上記特別調査委員会ごとにそれぞれの活動を要約するとともに、建築防災や減災に関わる調査研究やその行政施策への反映等に、長年指導的役割を果たしてきた有識者を迎えたミニパネルディスカッション（PD）を企画している。各ミニ PD では、本音の会話と辛口のコメントを奨励することにより、できるだけ刺激の高い議論の場を提供したい。